

化学品商社と樹脂成形を両輪とする創業360年の老舗企業

森六ホールディングス株式会社



代表取締役 社長執行役員
栗田 尚氏

長寿の
秘訣

既存ビジネスの枠を超えて、時代の先を見通した決断と挑戦の連続
顧客と向き合い誠実なビジネスを積み上げてきた創業以来のDNA

徳島名物の阿波踊り。藍染めに用いる藍玉で活況を呈した徳島城下の町人文化が源流とされる。その藍玉の商いを発祥とし、創業約360年の歴史を持つのが森六グループだ。江戸時代に広く流通した藍染めを支えるとともに、幕末期にはパリ万博に阿波藍を出品し、“ジャパンブルー”の海外進出を目指した森六。現在は森六ホールディングスを持株会社とし、モノづくり機能を持つ化学品商社（森六ケミカルズ）と、自動車部品を中心とする樹脂成形部品メーカー（森六テクノロジー）の2事業会社を柱に、売上高約1,600億円、世界61拠点を構えるグローバル企業に成長した。森六グループの15代目となる栗田尚社長は、「長い歴史の中には、数々の挑戦と変革があった」と説明する。

◎商社&樹脂加工メーカーへ

明治以降で特筆されるのは、1909（明治

42）年の合成染料の販売開始。藍玉という天然染料で築いた実績に飽き足らず、いち早く人造藍を先取りした当時の決断が、森六を化学品商社へと導いた。2つ目は、1958（昭和33）年の樹脂加工事業参入。本田技研工業の大ヒット二輪車「スーパーカブ」に用いるフロントカバーなど3部品を鉄製から樹脂成形品に置き換えることに成功した。栗田社長は「商社の地道な活動が認められた証。苦しい時でも材料調達を続け顧客をサポートした信頼と実績が、当社への依頼につながった」と解説、ここから森六の樹脂加工メーカーとしての躍進が始まることになる。

その後、ホンダの四輪ビジネスが拡大するにつれ、森六は、ホンダの米オハイオ進出に伴う現地供給体制の対応を迫られる。ホンダの米国進出が成功する保証はない。ましてや森六には現地工場を建設するノウハウもな



明治中期の新聞広告（当時は藍玉・醤油問屋として営業）



1958年当時のホンダ「スーパーカブ」

い。それでもリスクを承知で進出の決断をくだした。「いつの時代にも、挑戦の瞬間には必ず思い切った決断をするキーマンがいた」（栗田社長）。その後のホンダの相次ぐ現地生産シフトで森六の海外拠点整備も加速し、今や樹脂部品のグローバル供給体制は、同社収益の大きな柱に成長している。

◎社会貢献と人材育成を軸に サステナブル経営へ

2008（平成20）年に持株会社制に移行した森六は、創業から350年を経た2017年に東証一部上場を果たした。「変化をいとわず挑戦を続け誠実に歩んできた。今後はステークホルダー、特に社員にとって魅力ある会社になりたい」と語る栗田社長。上場を機に社会貢献や人材投資を強化し、パブリックカンパニーとしての進化を目指す方針だ。

まずは社会的な課題解決の取り組み。樹脂化による自動車の軽量化、燃費改善への貢献に留まらず、脱炭素・環境負荷低減に向けて国内外の工場にソーラーパネルを設置。2022年度からの新中期経営計画で具体的な数値目標を掲げるほか、樹脂を環境対応素材に置き換えたペットボトル代替品など循環型社会に貢献する製品開発にも参画している。人材への取り組みも強化する。「機械系に加え、AI人材など幅広い人材を採用していく」（栗田社長）として、時代の変化をリードする人材を育てるとともに、社員の働きがいを高めるため、期待する役割と評価基準・プロセスを

経営理念

森六グループは、未来を先取りする創造力と優れた技術で高い価値を共創し、時を越えて、グローバル社会に貢献します



若手エンジニアの育成を強化

明確にする新人事制度を導入した。女性活躍の推進やコロナ禍で導入した在宅勤務・時差出勤等も引き続き定着させていく方針だ。

上場2年目の2019年、女子プロゴルファーの山路晶選手と所属スポンサー契約を交わした。飛距離を生かした攻めのプレースタイルが、新たな挑戦に向かう森六のベクトルにマッチした。2021年5月、「1ラウンドで2度のホールインワン」というギネス世界記録™を達成し一躍脚光を浴びた山路選手。社会の諸課題に挑み、創業400年を目指す森六グループが、山路選手とともに一段と輝きを増す時代が訪れようとしている。

会社概要

- 創 業：1663（寛文3）年
- 設 立：1916（大正5）年3月
- 所 在 地：東京都港区南青山1-1-1
新青山ビル東館18階
- 資 本 金：16億4,010万円（東証プライム上場）
- 従業員数：連結4,550名（2021年3月末）
- 事業内容：
 - 【森六テクノロジー】
 - ・四輪車用樹脂成形部品、機能部品の製造・販売
 - ・二輪車用樹脂成形部品、機能部品の製造・販売
 - 【森六ケミカルズ】
 - ・化学品、合成樹脂製品、電子材料、複合材料、産業資材、食品等の販売および輸出入
 - ・各種受託加工
 - ・精密機械部品の製造販売

